



校長室だより

学校教育目標「自ら学ぶ子供」

八代市立八代小学校
校長 村嶋 博史

R5,7,18 No,11

一学期間、大変お世話になりました

今年度は、これまでの新型コロナウイルス感染症の対応から、アフターコロナの対応への移行が求められています。コロナ禍の中、本校では、教育活動を止めないを合い言葉に、各種行事等の目的を再考し、その達成に向けたより効果的な教育活動を模索し、実践してきました。そして、今年度は、そのノウハウを生かし、新たな教育活動を創造する年度と考えています。ゴールは、学校教育目標「『自ら学ぶ子供』～自己有用感をもち、自主的・協働的に行動する八代っ子～」の達成です。

さて、4月に入学・進級した子供たちは、この1学期（登校日69日）の間に、集団での生活を通して、仲間と協働した学習の楽しさや分かる・できる喜び、自分は誰かの役に立っているという喜び、仲間と協力して物事を成し遂げる満足感、仲間の温かさなどを体感したことと思います。時には、仲間に迷惑をかけてしまった子供もいましたが、自分の言動を振り返り、素直に反省し、今後の言動を自分で決める子供が増えたことに喜びを感じています。

保護者の皆様には、この間、本校教育活動に対し、多大なるご理解とご協力をいただいたことに心より感謝します。今後も家庭・地域・学校・関係機関との連携と分担により、子供たちの良さや可能性を最大限に引き出していきたいと考えておりますのでよろしくお願いいたします。



子供を褒めるときに大切なこと

子供を褒めるとき、子供が受け取りやすいのは、I（アイ）メッセージ（例：「私はよく頑張ったと思うよ」「私はあなたの頑張りに感動したよ」など）で、子供も素直に受け止めることができます。それは、あなたの気持ちをオープンにしているからです。You（ユー）メッセージ（例：「あなたは頑張った」など）は、評価されたという気持ちが出てくるときもありますが、場面によっては勝手に決めつけられていると感じたり、反発したりすることもあります。しかし、IメッセージもYouメッセージも伝え方の一つで、それが絶対正解ということはありません。大事なことは、褒めるとき、叱るときに愛情をもち、感情だけにまかせず、子供がなぜ褒められたのか、なぜ叱られたのか、どうすればよいのか、分かるように伝えたり考えさせたりすることだと思います。



一生のうち親子が一緒に過ごせる時間は、なんと4年と45日！

「一生のうち親子が一緒に過ごせる時間は、なんと『4年と45日』しかない」この衝撃的な内容は、以前、球磨村立渡小学校のPTA新聞に掲載された記事です。

細かく計算した結果、保育園から高校までの間で親子が一緒に過ごす時間は4年、高校卒業以後だと45日だそうです。それに、週3回の残業や会議、飲み会等が18年間続いたらマイナス1年になるそうです。

この話を聞いたとき、親が子に直接愛情を伝えられる時間は想像以上に短いなと愕然としたことを覚えています。そして、そのとき既に子育てを終えていた私は、「こんなに短いと知っていたなら、もっと意識して会話を増やしたのに。もっと良さや伸びを褒めたのに。もっと一緒に遊んだのに。」と悔やみました。

現在子育てをされている保護者の皆様には、是非、残りの数年と数日を有意義な時間にして、悔いのない子育てをしてほしいと思います。夏休み期間中は、会話を増やしたり、一緒に遊んだりするチャンスだと思います。